

## PP8 サルコイドーシスを疑った類上皮細胞に乏しい肉芽腫の一例

○土屋 善慎<sup>1)</sup>、佐藤 光博<sup>1)</sup>、益子 茂人<sup>1)</sup>、真田 覚<sup>1)</sup>、佐藤 壽伸<sup>1)</sup>、田熊 淑男<sup>1)</sup>、江石 義信<sup>2)</sup>

1) JCHO 仙台病院腎臓疾患臨床研究センター、2) 東京医科歯科大学大学院 人体病理学

67才女性。IgA腎症由来の慢性腎不全としてX-2年5月より他院で維持透析中であった。X-1年12月よりカルシウム(Ca)の上昇を認め、X年1月にはCa 11-12mg/dlが持続し食思不振、倦怠感も出現したため当院紹介。補正Ca 12.3mg/dl、IP 4.6mg/dl、PTH-intact 39.4pg/ml、PTHrP <1.0pmol/L、1,25-(OH)2 Vit. D 77.8 pg/ml、結核菌特異的IFN- $\gamma$ 陰性、s-IL2レセプター 2130 U/ml。ACE 19.7U/Lと正常上限程度の上昇を認めることからサルコイドーシスも疑われたが、典型的な皮疹、肺門リンパ節腫脹、ぶどう膜炎は認めなかった。Gaシンチで大腿部に集積を認めたが肉眼的には異常を認めず皮下組織の生検を行った

ところ皮下脂肪織に類上皮細胞に乏しい巨細胞を有する肉芽腫性病変を認めた。類上皮細胞に乏しいものの、その他肉芽腫形成疾患は否定的でありサルコイドーシスを疑いPSL 20mg/日を開始したところCa・1,25-(OH)2 Vit. D・s-IL2レセプター・ACE共に低下した。また抗PAB抗体による染色を行ったところ多数の陽性所見が得られた。類上皮細胞はサルコイドーシスの確定診断に必須であるが本症例はこれに乏しい。しかし抗PAB抗体陽性所見が得られるなど興味深い所見が得られており報告する。

## PP9 A case report of recurrent granulomatous iritis caused by tube erosion after glaucoma drainage implant surgery

○小林 加苗<sup>1)</sup>、濱中 輝彦<sup>1)</sup>、武村 民子<sup>2)</sup>、武井 正人<sup>1)</sup>、生島 壮一郎<sup>3)</sup>、江石 義信<sup>4)</sup>

1) 日本赤十字社医療センター 眼科、2) 日本赤十字社医療センター 病理部、3) 日本赤十字社医療センター 呼吸器内科、4) 東京医科歯科大学 人体病理学分野

Tube erosion is one of the serious complications after glaucoma drainage implant (GDI). It may have a risk for endophthalmitis.

**A case report:** A patient, 60 years old female, was diagnosed as primary open angle glaucoma and her right eye was received GDI. The tube was eroded in 13 months after surgery and recurrent granulomatous iritis occurred in the same eye despite of topical antibiotics and vitreous injection of ceftazidime/vancomycin.

No bacteria was detected in the both results from culture of two anterior chamber tap tests, and the inflammation spread

over the vitreous. Then, the GDI was removed, and encapsulated tissues surrounding GDI obtained at the surgery were processed for pathological examination including immunohistochemical staining with anti *Propionibacterium acnes* (P.acnes) monoclonal antibody. Strong positive granular materials were observed.

**Conclusion:** P. acnes infection should be considered in case of recurrent granulomatous iritis followed by tube erosion.

## PP10 局面型サルコイドーシスに加え、頭部に潰瘍型サルコイドーシスを呈した1例

○加藤 保信、山本 俊幸

福島県立医科大学 医学部 皮膚科学講座

73歳、女性。約2年前から下肢に特に自覚症状のない皮疹が出現した。10ヶ月前から頭部にも皮疹が出現し、徐々に厚い鱗屑や痂皮、痂皮下の膿の貯留、脱毛を伴うようになった。心機能の精査のため、当院循環器科入院中、当科紹介された。初診時、両下腿を中心に下肢に貨幣大までの大きさで、やや辺縁が盛り上がった、萎縮性の淡紅褐色局面が散在していた。顔面にも指頭大までの大きさで、同様の皮疹が散在していた。下顎部の皮疹では陥凹も伴っていた。頭部には広範囲の萎縮性瘢痕性脱毛を認め、左側頭部を中心に手拳大の黄褐色調の厚い痂皮を認めた。痂皮を剥がしたところ、下床は潰瘍を形成していた。①左下腿の褐色

局面、②頭部の潰瘍部の2か所から皮膚生検を施行した。①の組織では、真皮の浅層から深層にかけて肉芽腫を多数認め、類上皮細胞肉芽腫やLanghans型巨細胞、asteroid bodyを認め、周囲にはリンパ球の浸潤も認めた。②の組織では、真皮内の一部にLanghans型巨細胞、組織球、形質細胞等の浸潤を認めた。以上より下肢、顔面の局面型サルコイドーシスに加え、頭部に潰瘍型サルコイドーシスを呈したと考えられた。